

1 学校教育目標

「希望と努力をもって未来に挑戦する子どもを育成する。」
 障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を充実させ、その能力や可能性を最大限に伸ばし、将来の自立と社会参加に向け各自の希望に向かって努力する志と力を培う。
 その実現に向け
 ○ 障害による様々な困難を主体的に改善、克服する力の育成
 ○ 確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成等「生きる力」の育成
 ○ 夢や希望の実現に向け主体的に努力する意欲と態度の育成
 ○ キャリア教育を推進し、将来の社会参加や自立に必要な態度と能力の育成

2 重点目標

○一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育を推進する。
 ○豊かな社会性と人間性を育むため、交流及び共同学習を計画的・継続的に推進する。
 ○幼稚園から中学部まで系統的・継続的な体験学習を充実させ、学び成長する意欲と将来への希望を抱く教育を推進する。
 ○自他の人権を尊重し人との関わりの中で中を思いやり感謝する心を育む人権教育と、人としてより良く生きるための道徳教育を充実させる。
 ○様々な自然災害から生命を守り、主体的に行動する力を育むための防災・安全教育を充実させる。
 ○地域の特別支援教育のセンター的機能及び「但馬地区特別支援学校ネットワーク会議」の一層の充実を図る。
 ○教職員の協働体制を確立するとともに、教職員としての資質と実践的指導力の向上に努める。
 ○家庭・地域との積極的な連携を行い、開かれた学校づくりを推進し、信頼される学校づくりを行う。
 ○教職員の勤務時間の適正化に取り組み、すべての教職員が子ども一人一人に向き合える環境づくりを進める。

3 自己評価 (4…よくできた 3…できた 2…あまりできなかった 1…できなかった)

○肯定的意見 ●課題的意見

分野	評価内容	評価	4	3	2	1	取り組みへのコメント	取り組みの成果／改善の方策
総務部	学校行事や儀式的行事を、幼児児童生徒に分かりやすく充実させる。	3.2	13	20	1	0	○行事は事前説明で心構えが作られている。○学校行事や日常の指導で、子どもに分かりやすく提示するスキルは、地域の学校園に対してよいお手本になると思います。●分かりやすく伝える支援は難しいものがある。	(成果)○始業式や終業式では、進行についてプログラムや写真提示の視覚支援と共に、子どもたちに伝わりやすいよう平易な言葉や手話を使用することでスムーズに進行できた。○教師へ事前に内容を案内し、知ってもらっておくことで、スムーズに進めることができた。 (改善)○内容に関するイラストや写真の提示を今後も続けるとともに、誰にでも分かりやすい提示を心がける。
	地域や学校交流を通して地域と連携した活動を推進し、本校の理解啓発を図る。	3.1	10	23	2	0	○寄宿舎では、豊岡高校、豊岡高校定時制や500人委員会などと長年にわたり交流を続けている。毎年実態の違う子ども達に関わりながら実績を踏んできた。今後も学校と連携し、日常生活の自立に向けての支援や取り組みを知ってもらいたい。○オープンスクールの案内等、広くメール送信していただき、地域の支援学級の先生にも来ていただくことができた。○オープンスクールの案内を但馬5市町教委に送付し、地域の保・幼・小、中への周知を図った結果、当日には地域の小学校からの参観も見られた。○オープンスクールなどの案内を地域に従来より広く知らせた良かった。次年度も継続してほしい(案内はもう少し早めが良い)。○近隣の高校との交流に努め、有意義な交流が継続されている。○いろいろな案内を職朝等で丁寧に周知連絡していただきありがたい。●ニコニコ祭りを通して、本校の理解啓発の場を設けることができたが、地域への声掛けの範囲に課題があると思われる。●行事が多い、精選すべき。ニコニコ祭りは、必要かどうか再検討が必要。●ニコニコ祭りの狙いに沿って、祭りの持ち方を考える。●来校者には来校証を付けてもらうなど、不審者対策が必要では。●総務の課題ではないが、管理職不在のオープンスクールはどうなんでしょうか。	(成果)○オープンスクールでは、メールでの案内方法に変更したことで、広く案内ができたので、来校者が少しだけ増加した。○学校行事等に地域や学校間の交流の写真を掲載し、来校者への啓発をおこなった。 (改善)○行事の案内に関しては、早めに豊岡市教委や関係市教委へメールで案内を送付し、管内の保・幼・小・中学校への周知を図る。○不審者対策として、事務室や受付で来校証を準備し付けてもらうよう準備する。保護者についても保護者証を準備し、付けてもらう方向で検討する。○ニコニコまつりについては、実行委員会で検討。次年度への提案をおこなう。
教務部	「個別の指導計画」の保護者提示を通して指導の目標の共通理解を図る。	3.2	14	17	3	0	○保護者と話し合っ、共通理解ができている。○保護者に「個別の指導計画」を提示することで、保護者からの安心感を得た手応えがあった。○今年度から個別の指導計画を懇談会で提示するようになったことが成果だと思う。●今のところ大きな問題もなく進んでいるが、何か問題が出てきた時には、その都度対応を考えていかなければならない。	(成果)○保護者に懇談会で個別の指導計画を提示することで、目標や評価の共通理解が図れ、保護者との協力体制を築くことができた。 (改善)○今後も指導の目標や成果について保護者と共通理解を図るとともに、幼児児童生徒の日々の様子を連絡帳・通信・各行事等を通し保護者と信頼関係の深化を図る。
	担任団の協議を重視し、幼児・児童・生徒の実態に配慮した「個別の指導計画」の作成に努める。	3.3	17	15	2	0	○指導計画や成績表の読み合わせのための相談日が新設され、集中して内容を検討することができた。○相談日に会議を入れず、担任団の相談日が確保できたことは良かった。また、指導と評価の共通理解が進んだ。○個別の指導計画相談日を設けてもらい、ありがたかった(ノー会議デー)。○指導計画相談日を設けたことで、担任団でしっかり話し合う時間を持つことができるようになったと思います。○クラス相談日を設けることによって、「個別の指導計画」等をしっかり話し合うことができた。○個別の指導計画のクラス相談日が設定されていることで、他の会議が入ることなく話し合いがしやすい。●作成についてよく取り組めたと思う。評価内容がやや重複した感があり、指導計画のこと以外についても(例えば教育課程そのものの理解啓発等)次年度は教務部として取り組んでもよいのではないか。●何を、どの程度書けば良いか分からない書類もある。書き方の例文のようなものがあると思う。●様々な場面で子どもたちが前に出たりできるように設定できればと思う。	(成果)○クラス相談日に会議を入れず、指導計画や成績表の読み合わせの時間を確保することで、担任団の指導と評価の共通理解が図られより個別に対応した指導内容と評価作成できた。 (改善)○今後も相談日には、会議を入れず、担任団の協議を重視し実態に配慮した指導計画の作成に努める。○教育課程については、4月の職員会議で説明し、共通理解を図ったうえで実施する。個別の指導計画については、評価内容が重複しないように、ポイントを配布し研修に努める。
生徒指導部	学校行事や朝会などで幼児児童生徒が主体的に活動できるような場の設定を行う。	3.2	14	19	0	0	○朝会の寸劇だったりクイズだったり、趣向が凝らしてあり良かったです。○朝会の内容が充実していてよかったと思う。○朝会等の司会で生徒が前に出て主体的に活動することができた。●毎月の朝会などで児童生徒が主体的に活動できる場を十分に増やすことができなかったと思います。●朝会の時間内(45分)で終わるように、内容の精選をする。(良い内容なので集中させたいが、集中が難しくなる。●)昨年に比べて、児童生徒が参加するゲームや体験活動が少なかったように思う。	(成果)○寸劇やクイズなど、幼児児童生徒が理解しやすく、主体的に活動できるような内容を工夫することで、子どもたちが楽しく参加することができた。 (改善)○時間内に終われるよう内容を精選しながらも、今後も幼児児童生徒が主体的に楽しめる活動を考え、計画的に実施していく。
	1階昇降口横の掲示板を有効に活用しながら、校内・校外作品展等の整理、充実を図る。	3.1	9	24	1	0	○12月のクリスマス飾り、無理のない形で作品を掲示することができ、良かった。○掲示板活用については、今後も取り組むことが良いと思う。○クリスマスに向けて、昇降口横の掲示板の飾りの呼び掛けは良かった。○1Fの掲示板に掲示がない時期もあったが、様々な作品を多くの方に作品を見てもらうことができた。●オープンスクールの時に作品が無かったの、その時には持ち寄りで、作品を掲示すれば良いと思った(市展の作品をそのまま掲示するなど)。廊下の額に飾ってある絵がとても古い。今の子ども達の作品を飾ってもよいのではないかな。	(成果)○各クラスに呼びかけて作品展の時期以外でも掲示板に作品を掲示したり、校内作品展や校外作品展の在り方について、教師間で共通理解したりすることができた。 (改善)○作品作りが子どもたちの負担にならない程度に、掲示板が空白になる期間がないよう、市展の作品やクラスで作った他の作品なども効率的に掲示していく。○校舎内に飾ってある額入りの絵については、2、3階は防災面に配慮して撤去する。1階については、中学部3年生の作品を中心に掲示し、1年ごとに入れ替える。階段踊り場等の共同作品についても、近年の作品に変える。
研修部	研究テーマに応じた授業研究を行い、授業改善に向けて協議する。	3.1	12	21	1	0	○授業研究をすることで個への指導が深められた。○授業研究を学部全体で見学に行く体制、その後の事後研も実りあるもので良かった。○テーマに応じた授業研究が行えた。学部内の改善に向けて協議ができた。●日々の授業に繋がるような研修を増やしてほしい。●授業研究は大事だが、指導案等をもっと少し簡略化した内容でもよいのではないかな。●個別の授業から集団の授業へ変えていくことが必要だと考える。	(成果)○研究授業については、授業改善に向けて、事前事後の話し合いを行うことができた。 (改善)○校内での研究授業については、指導案の文言の検討も大事ではあるが、授業内容を深める話し合いの機会と捉えて、今後も、各学部1回の研究授業は実施したい。○個別の授業から集団への授業を変えていくことが必要であるが、各学部の研究で、指導体制についても授業を考える視点の一つとして検討していきたい。
	聴覚障害、知的障害に関する研修を行い、専門性を高める。	3.1	8	23	2	0	○研修で新たな学びや、既知の事柄の再認識ができた。○朝の手話しゅわバスケ、手話に親しむ機会として継続してほしい。○療育研修会は、毎回勉強になるので今後もずっと継続してほしい。●専門研修が、外部の研修に頼ることが多いように思う。校内での研修の充実が必要(特に聴覚部門)。●障害に関する職員全体の研修を受けたい。●発達障害研修会で嶋崎先生以外の指導を受けてみたい。	(成果)○講師を招聘しての研修会を行ったり、書籍の紹介や他校の研修会等の案内や出張報告会を行ったりして、専門性を高める機会を持つことができた。 (改善)○学部会などで、研修についての具体的な要望(講師を含めて)を開き取り、来年度の研修計画に反映させる。また、学部グループでの研究日を有効に活用する。
保健部	心肺蘇生法や普通救命講習の実習を通して、緊急事態に備える。	3.2	15	15	3	0	○緊急時に備えるための、実習を伴った研修は有効であり、今後とも必要だと思います。○とても良い取り組みだと思ふ。校内だけでなく一般社会でも緊急時に役に立った。○普通救命講習を受講したり、発作を持つ子どもの緊急時の対応のシミュレーションを行ったり、緊急事態に備えている。○救命法について、しっかりと時間と場を取って講習を受けることができた。●校内の救急体制の共通理解が十分でないように思うところがあります。マニュアルはありますか。●普通救命講習の2時間は本当に必要なのでしょうか。心肺蘇生法だけではだめなのではないか。●心肺蘇生法はプール前の放課後に消防署の方に来ていただいて、全員で受ける夏休みの3時間講習は、希望者のみの講習にする。●消防署に向かいでの講習より、1学期中に校内で救命士さんを招いて毎年救命法の講習会をする方が知識が定着するような気がします。●心肺蘇生法や普通救命は、紙の上でしか学んでいないので不安がある。●ニーズと優先順位を見極めて保健関係の研修の精選が必要では。●発作対応は、関係学部だけでなく、保健部も絡みつつ全職員に周知するのが良いと思う。	(成果)○救命法について勉強する時間と場を持つことで、緊急時に備えてもらうことができた。 (改善)○今回の普通救命講習の時間設定を短縮する方向で検討する。○年度途中に着任された先生への心肺蘇生法などの講習を個別対応し全職員が実施できるようにする。
	学校給食で活用する野菜の皮むき作業などを通して、食に関する体験活動を推進する。	3.4	18	15	0	0	○給食の下準備を手伝わせてもらうことで、苦手な食材も食べることができた。○食育を通して、食べる楽しさ、作る楽しさを知ることは、生きる力に繋がる体験となり良かったと思う。○大豆の話(石臼)枝豆の皮むきなど、食に関する体験ができ、良かったです。○食に触れる機会となっており、よい事だと思う。○来年度も食に関する体験活動をたくさん行いたい。○食に関する体験に加え、リクエストメニューの実施等で給食を楽しみにできたと思う。○皮むきの体験をすることで、苦手な生徒も「少し食べてみよう」とチャレンジすることができた。○野菜の皮むき作業と給食日が近く子どもたちが実感しやすかった。○皮むき作業などは継続してほしい。○食育で、野菜の皮むきなどの体験的な活動をさせてもらい、とても良かった。○野菜の皮むきなどの体験はとても良いと思います。○皮むきや粉むきの場を設定してもらい、給食時のテーブル上の掲示物と合わせ良い体験活動となっている。●食育ということで野菜の皮むき作業があったが、学期ごとに計画(予定)があると、指導等に有効に活用できると考える。●野菜のエンドウ豆の皮むきは手軽にできたのでとてもよかった。一方、枝豆のさやとりは、量も多くビニールシートなどの準備物が必要で、事前にその打合せができたならと思った。●学校給食のメニューで、食べるものにこだわりのある少数の児童にも配慮してほしい。	(成果)○幼児児童生徒の実態を配慮しつつ、体験等を活かした食育に繋がるメニューが作成できた。 (改善)○来年度から食育体験に関する年間計画を作成し、各学部、担任と打ち合わせを事前に行い効果的に実施する。

舎務部	集団生活をおとして、他を思いやる心や協力してたくましく生きる力を育む。	3.3	15	18	0	0	○一方的に話すことが多かった子が、会話をしたり、少しずつ人の話を聞けるようになってきた。○当番活動、行事等を見通して、協力し合い活動できている。指導員全員で共通理解をしながら進めることができた。○異年齢集団の良さを生かし、協力し合って寄宿舎生活を送っている。○相手の事を思いやって助ける心が集団生活で育めている。	(成果)○異年齢集団生活の中で、上級生は下級生に配慮したり、下級生は上級生を見本にしながら仲良く生活できた。 (成果)○日々の生活や様々な行事を通じて、集団で協力したり当番の役割を果たすことができた。
	将来の自立に向け、個別の生活指導計画を作成し、基本的な生活習慣の確立や生活能力の向上をめざした支援を行う。	3.3	15	17	1	0	○洗濯、掃除の取組を行い生活能力向上に取り組めた。○個の実態に合わせた生活指導計画を作成し、担当指導員だけでなく全ての指導員が協力し目標に向かって取り組んでいる。また、実態に合わせてステップアップもしている。○絵カードやシール1枚で理解できる児童がいて、その効果は「百聞は一見にしかず」だと思った。○個別の生活指導計画の検討を全員で行い、共通理解しながら丁寧に指導にあたっている。○ヒヤリハットや小さな事故が多かったように思うが、報告をきちんとされていたのは良かった。○舎での生活の様子や取り組んでいることを伝えて下さって、連携が取りやすい。●指導員全員で指導計画を相談し、それに従って指導を進められることができた。しかし、指導計画にないことや、新たに加わったことへの対応が不十分であったことに対して反省している。●県下の寄宿舎を持つ学校同士で情報交換し、安全対策について更なる対策がされるとよいなと思いました。●寄宿舎生活の中で、生活年齢に応じた指導をするべきだと思うが、中学部3年生の男子生徒に女性指導員が入浴指導するようでは、年齢にふさわしい羞恥心を芽生えさせようとしても無理だと思う。兼任舎監だけでも全員男性職員にしていたら、入浴指導ができる体制を整えてほしい。	(改善)○引継ぎ会・ミーティングを活用し、一層の情報共有と共通理解を図る。○近畿研寄宿舎研究会や寄宿舎のある和山山特支等と情報交換を行い、安全対策を充実させたい。○引き続き男性指導員の配置を要望する。同性介助を原則として確認した上で、生活指導全般を指導するにあたり、舎生の実態把握が必要となるので、発達年齢を考慮し中3生男子に関しても女性指導員が指導を行う場合もある。女子舎生への指導が必要な場合もあるので、舎監(舎務部長含む)は4名の内、2名は女性職員を希望する。
支援教育部	地域の特別支援教育のニーズに添ったセンター的機能の充実を図る。	3.1	9	22	2	0	○各市町の保健師さんより情報をもらい、相談に繋がるケースが多かった。○各市町教育委員会との連携事業として、聴覚児在籍校訪問支援を20回行った(但馬、丹波地域)。●校内支援は、どうするか。	(改善)支援教育部が行う校内支援は、3つの委員会の分掌として実施しており、その役割の周知を図るとともにさらに発展させていきたい。
	地域の関係機関と連携しながら特別支援教育の推進を支援する。	3.2	10	21	1	0	○地域に出向いての学習会や授業見学DAYを通して、本校の聴知併置についての周知を行った。さらなる周知及び本校の教育についての理解啓発に来年度も取り組んでいく。●連携も含め、知的併置の周知が十分でないように感じる。●知的併置になったことについて啓発不足だと感じる。	(改善)発達相談や就学相談の受け方については、検討中である。 (改善)聴知併置の理解啓発については、学校としてリーフレットを作成中である。また、関係機関への訪問を、管理職だけでなく地域支援担当者としても、年度当初に行うことを検討している
幼稚部	子ども同士でのやりとりを支援しながら、個々の実態に応じたコミュニケーション手段の獲得を目指す。	3.4	16	17	0	0	○子どもたちが自分の気持ちを伝える手段を身に付けられるよう関わってもらっていると感じる。○教師を介さなくても、子ども同士でのやり取りが増えた。●個々のコミュニケーション手段が違う場合、子ども同士のやり取りの難しさを感じた。	(成果)子ども同士で話したり、遊んだりする様子が増えた。教師がすぐに支援せず、見守ることも大切である。 (改善)子ども同士のやりとりを大切にしつつ、近くの教師が関わり方の見本を見せながらモードの違いを埋め、子ども同士をつなぐ役割をする。
	幼児がいろいろな遊びを通して主体的に活動ができる環境設定を行う。	3.3	14	18	1	0	○朝の運動や色々な遊びを設定されていて、道具の準備や片づけなど、主体的に活動で来ていたと思います。○子どもたちの様子に合わせた活動が行われていてよかったと思います。○子どもの実態に合わせて、休み時間にも遊べる教材を自作されていてすごいと思った。	(成果)主の活動だけでなく、その前後で準備や片付けも自分たちでできるようにした結果、自分たちで動けることが増えた。 (改善)今後も、教材教具や環境を整えるなどの工夫をする。
小学部	児童が伝えられた内容を理解したり、自分の思いを伝えようとしていたりする力を育むため、教師による手話や絵カード等を利用したコミュニケーション手段を改善、工夫する。	3.3	15	16	3	0	○個に応じた手段を改善、工夫され、昨年よりも落ち着いて過ごせる児童が増えてきたと思います。●手話をあまり使わない方もいるように思うが、コミュニケーション手段の工夫として、視覚支援だけでなく話し方の工夫も有効だと思う。	(成果)個別学習やグループ学習はもちろん、学部全体の学習においてもあらゆるコミュニケーションモードに応じた指導ができるよう、教師間で協力し工夫することができた。 (改善)手話だけでなく、身振り、筆談、声の大きさや速さ、話す向き等に配慮して、さらにコミュニケーション手段の工夫をする。
	児童が公共のマナーを身につけたり、人間関係を広げたりするため、校外学習や交流及び共同学習の内容や運用について検討を加える。	3.3	14	19	2	0	○大人になっても自分から社会に出られる子供は少ないので、交流などとても良い機会だと思う。●中筋小学校との交流会も高学年になっていくと学習の内容が難しくなっている。	(成果)昨年度の反省をもとに今年度の校外学習や交流の内容を再検討した。このことにより、社会見学や遠足、他校との交流を通して、公共のマナーを身につけたり様々な人と接する機会を持ったりして、社会性を広げることができた。 (改善)中筋小学校との交流会については、両校で内容を確認しながら進める。相手校とよりよい交流のあり方について話し合っていく。
中学部	生徒の実態や課題を共通理解し、分かりやすい提示方法を工夫することにより、コミュニケーション力の向上を図り、人間関係を広げるよう支援する。	3.1	13	19	1	0	○生徒への説明時に、情報過多にならないよう簡潔にした。製作工程を説明した後も、手元プリントで示した。モニターで動きのある物を提示し、理解や興味を継続し授業に取り組むことができた。○喫茶サービスで各学部で後、色々な年齢の子どもたちとのやり取りを経験できた。○授業では、PP等を使って、視覚的に分かりやすく、動きのある説明ができたように思う。○学部での授業では、パワーポイントや掲示物等、視覚的な教材を使って授業を行った。生徒同士も他学年との関わりが持てるようにグループ割をして、人間関係が広がったように感じる。	(成果)○生徒の特性を理解して情報を提示することができた。教師間で準備と内容の周知ができた。 (改善)○生徒の特性を理解し、適切な内容を計画する。
	ニーズに応じた福祉サービスや進路情報を提供し、諸機関との連携を図って進路指導を進める。	3.1	13	17	3	0	○進路情報として、聴覚特別支援学校の学校見学、知的特別支援学校高等部への体験入学を行い、進路指導を進めた。○進路については、幅広く情報を提供し、ニーズに応じて諸機関と連絡を取って、見学の場を設定できた。●生徒の福祉サービスの利用が少ないということもあり、なかなか関係機関との連携を図ることができなかった。	(成果)○高等部の学校見学を案内することができた。 (改善)○福祉サービスの情報交換の機会を定期的に設ける。
事務部	電気・水道使用量の削減の推進に取り組む。	3.2	11	18	2	0	○声を掛けていただくことで、使用量の削減に気が付けられるよう意識できた。○節電に努めた。○可能な限り、消耗品や水道の節約に取り組むたい。○「必要なものは必要」という理解の上での削減に取り組めたのは良かった。○常に光熱費削減、コピー削減に取り組んでいる。○エアコンの使い方について、スイッチを入れる時間をずらすなど、柔軟な対応をしていただいた。●節電、節約にもう少し協力すればよかったと反省しています。●夏場、エアコン又は扇風機を使わせてほしい。●舎生が帰ってくる30分前に部屋を暖めてほしい。●個人個人の意識改革が必要。使わない教室の電気を消したり、トイレのふたは閉めたり、まだまだ個人で努力はできると思う。	(成果)エアコンの増設によりデマンドの数値は上がったが、エアコンのスイッチを入れる時間をずらすなど電気の使用時間を分散して計画的なデマンド管理をすることができた。 (改善)定期的にメーターの検針を行い分析及び職員への周知により削減意識を高めるよう努める。
	コピー用紙使用量の削減に取り組む。	3.0	7	19	5	0	○事務室ではコピー用紙の使用量削減に努力していただいていると思う。全体でのだいたいの使用量が分かればありがたい。○できるだけ用紙の裏面が使えるものは使っている。●裏面使用時は裏面に赤で斜線を入れてほしい。子ども顔が写っている用紙を裏面使用するのは避けてほしい。●コピー用紙だけでなく公共のものだから自分の財布は傷まない」という感覚でいろいろ無駄遣いしているものがあると思う。●事務室としてはコピー用紙の削減となったと思うが、教職員の方で取り組むことが大切。●コピー機を使いたいが、17時に閉まっていることがほとんどなので、仕事はかどらなくて困ります。コピー機を職員室に置くべきかと思えます。●事務室が閉まってからコピー機を使いたい時が多いです。コピー機を職員室に置くなどは無理でしょうか。●コピー機を職員室へ置いてほしい。●教材用に印刷できるのはありがたいので、会議資料はパソコン画面を見て行うと印刷せずに済むと思う。●設定を確認して印刷する。	(成果)余分な会議資料を印刷しない、裏面利用を積極的にするなど用紙の使用量の削減や再利用に取り組む推進した。 (改善)結果としてコピー用紙の使用量は増加した。印刷設定、記載内容をよく確認してからプリンター出力する、不要なものは出力しないなど個人の削減意識が高まるよう努める。
人権教育	兵庫県人権教育研究大会但馬地区大会や豊岡支部の人権研修会等に参加し、人権感覚を磨き、意識を高める。	2.9	5	26	4	0	○日常の中で、相手を思いやった行動を見つけ教師同士で確認し合うことができた。○研修会等に参加し、様々な立場の方々との意見交流を行った。○保護者の不安や思いに耳を傾け、学校、保護者、指導員が協力して誰もが大らかな子どもという意識を持って関わっている。○研究発表など、子どもに対して皆さん真剣に取り組んでおられる姿が感じられた○人権講演会の内容を毎年楽しみにしています。●児童生徒を呼ぶとき、名字ではなく名前を呼ぶことが多々あると思う。●大会や研修会に参加しても人権意識は高まらない。個人的に「こういう発言はダメ」と具体的な発信が必要だと思う。	(成果)○研究大会は大勢の教職員が参加し、発表を聞いて自己を振り返るなど人権について改めて考えたり、学んだりする機会となり、人権感覚を磨くことができた。また、研修会等も自主的に参加し、人権への意識を高めることができた。 (改善)○引き続き今後も人権に関する研修会等は告示し、積極的な参加を促すようにする。○教職員は日頃から自身の言動に注意を払うとともに、気になる点は互いに話し合うように努める。
	人権教育計画に基づいて研修を行い、幼児児童生徒に対する人権教育指導の理解を深める。	3.0	7	25	2	0	○夏休みに行った指導計画をもとにした話し合いは、他のクラスの様子がわかり、良かった。○今年度はDVD視聴ではなく各学部で取組等の研修を行い、共通理解が図れた。○人権行事のお知らせを行い参加してもらった。○ビデオ視聴から学部での話し合いに変えることで、学部内の人権意識の再確認ができた。○今年度、人権教育計画に基づいた研修を行い、例年と違う角度から考えることができたと思います。ビデオを含め、色々な研修をすることが大切だと思います。	(成果)○学部ごとに人権教育計画に基づいた取り組みの話し合いは、他のクラスの様子がわかり、共通理解を図ることができたうえ、人権意識を再確認することができた。また人権教育の指導についても意識を高め、一年を通して全ての教育活動において実践することができた。 (改善)○今年度の研修やDVD視聴の研修を含め、日頃から教職員の人権意識を高め、人権教育指導の理解を深めるための研修内容を考えていくようにする。
授業検討会	外部人材等の参画による授業検討会を経て、学年・部で助言内容の共有し、授業の改善に取り組む契機とする。	3.1	12	19	2	0	○外部講師を招き研修に努めている。○授業検討会の助言を経て、報告や連絡、話し方、道具の整理など、身に付ける課題や指導について更なる改善が必要であることが分かった。喫茶サービスの取組として、身だしなみや店員としての対応について実践することで、勤務に必要な態度や技能について学ぶことができた。○外部の方に授業や生徒の様子を見てもらい、違う視点からの助言や気づきがあり良かった。●本校は指導案の検討からとても丁寧な取り組みをされている。視野を広げる点で大変意義があるが、行事後の忙しい時期と重なり、事前の検討時間等の短縮が課題と感じる。●中学部で行う作業学習や人材育成ではなく人を育てることの意義など教育的観点を押さえた上での外部人材参画等が必要だと思う。	(成果)○学部内で授業内容について検討し、生徒の特性や問題点を共通理解し作業における授業展開で提示する情報量や連絡報告の仕方など改善できた。 (改善)○外部人材の活用など、教育的立場や就労に関わる立場から幅広い観点から人選してアドバイスをもらう。
	生徒の勤労意欲を持たせ、将来に勤労先で求められる職務内容の基礎を培うように、作業学習等の実践的な研究を推進する。	3.1	9	23	1	0	●本校は市街地に立地しており、色々な経験ができる。将来の生活をイメージして、本校の利点を生かし経験を広げるキャリア教育の進め方を工夫できると思う。●今年度は中学部で実施された作業学習(キャリア教育)等については、小学部と系統性を持って取り組むことができればよいと考える。●中学生ということもあり、なかなか将来の就労というところまで意識を高めさせることができなかった。	(成果)○作業学習において、自主的に道具、部品を用意、制作、報告など基本的な活動の定着を進めることができた。 (改善)○地域性を活用し、見学や体験を重視した授業展開をする。また、キャリア教育段階表の目標に沿って具体的に各教科で実践していく。
学校関係者評価	<p>・聴知併置に伴いスクールバスの配置、運用について保護者へ情報が行き届くように広報の工夫を望む。・スクールバスと寄宿舎の運用の違いが分かりにくい、同じ学校でありながら利用できる児童生徒に条件があることについて保護者にとって分かりやすい情報を発信する必要がある。・学校評価シートについても前年度と比較できる様式で作成できれば経年比較ができ、評価者が替わっても変化を見ることが出来る。・指導計画などは、保護者に提示され共通理解を図って指導が進められていることは非常に良いが、提示される時期を年度初めの早い時期にお願いしたい。・学校見学、授業見学がいつでもできる体制づくりを進めていただきたい。・先生方の手話の向上を図るために手話の養成講座等の活用を推進して下さい。特に、ネームサインなど学校の中だけで通用する手話ではなく、学校外でも通用する手話の指導に尽力していただきたい。・自分の障害を理解し、周囲に伝えることができる力を身に付けられるように指導をお願いしたい。・幼稚部での食事の際の箸の使い方やトイレトレーニングを充実してほしい。・学校評価の評価項目にキャリア教育に関する項目を設ける必要がある。・節減は必要であるが、教育効果を低下させてしまうのでは意味がない。トイレの洋式化や照明のLED化を推進していただきたい。・豊岡高校との交流は是非、継続推進していただきたい。・豊岡市の特別支援教育の中核となる役割を果たしてほしい。・聴覚障害の子どもたちのモデルとなるような聴覚障害の先生を増やしてほしい。・駐車場等、保護者アンケートで物理的な評価が低いところの解消ができればよい。・食育に対する取組が良い。・社会へ出るための力を付ける指導や教育を前面に押し出して、社会自立、自己自立ができるように育ててください。・保護者アンケートの結果は、平均点だけではなく4～1のそれぞれの人数が分かる(少数意見の人数が分かる)資料にして欲しい。</p>							